

防災ドリル2

～地域でキラキラ！プロジェクト！～

北九州市 竹末市民センター【市民センター】

竹末まちづくり協議会 会長 善明 英喜

竹末市民センター 館長 吉弘 清美

1. 地域の概要

竹末地域は、北九州市八幡西区の中央部に位置し、副都心黒崎近郊の住宅と商業地域がひろがる街である。割子川のせせらぎが流れ、豊かな緑に恵まれ、皿倉山や帆柱山を望むことができる。竹末まちづくり協議会を中心に、「いつまでも このまちで 自分らしく いきいきと～赤ちゃんから高齢者まで すんでてよかったこのまちに!!～」をスローガンに充実したまちづくり活動が行われているが、少子高齢化が進み高齢化率は32.5%である。

また、一般社団法人北九州おたがいさま推進事業協会を核として、～次世代育成型生涯活躍のまちを目指して～産学官民一体となったまちづくりにも取り組んでいる。

2. 市民センターにおける高齢者対象事業

◇事業名 生涯学習市民講座 「若竹いきいき倶楽部」

◇事業の目的

いつまでも住み慣れた地域で自分らしい生活ができるように、講話、軽スポーツを通じて生活機能全般に関する低下予防を目的とする。地域ボランティアの協力を得ることで地域とつながりを持ち、引きこもりや孤立を防ぐことも目指す。

◇事業実施主体 北九州市立竹末市民センター

◇事業予算 生涯学習市民講座より 32,000円

ものわすれ予防事業等助成金より 20,000円

竹末若葉地区社会福祉協議会より 50,000円

◇実施に至る経緯

平成21年度より行政主導での元気でハツラツ健康アップ教室事業「若竹げんき倶楽部」を開催していた。3年をめどに自主運営化することが目標であったが、リーダー及び参加者の多くが後期高齢者であるためメンバーのみでの自主化がかなり厳しい状態に陥る。しかしながら、これまで培ってきた講座内容、雰囲気、交流の輪などを考えると終了してしまうのは大変惜しい。そこで、平成27年度より同様の事業目的・内容でセンター主催の生涯学習市民講座として開催することとなった。

◇プログラム作成の視点

生活機能全般の低下予防はもちろんであるが、月に2回（第1・3火曜日）センターで集うことが楽しみになるようなプログラム、自然と笑みがこぼれるような企画を心掛けている。また、第3火曜日は地域ボランティアによる連続講座（9回）とし、第1火曜日は幅広い年齢層と交流できるような講座を意識している。

◇事業内容 別紙プログラム添付

◇事業の成果

目的・内容が変わらず生涯学習市民講座へと移行したため、受講生の身体的な状況・動き・表情等の様子が9年間にわたり把握できている。そのため、普段の生活状況がわかり

孤立することがなく、問題があった際にはすぐに関係機関につなぐことができている。また、年1回の体力測定等で身体状況を自己診断しているため、何が必要かを考えるきっかけになっている。受講歴が長いメンバーは、生活全般の機能について現状維持している様子である。

◇今後の課題

センターと関わっていない高齢者の発掘。また、現在の受講生が受け身で参加することとなり、年なのだからやってもらって当たり前と考えている現状がある。しかしながら、少人数ではあるが積極的に前向きに関わっていく姿勢がみられる。高齢者には人生の中で培った豊富な経験があり、それを地域や多世代の中で無理なくいかしていくことが最大の課題である。

3. 課題解決のための地域ぐるみの事業

◇事業名 竹末市民防災会「地域防災ドリル2」

◇事業の目的

地 域：「知ることから始めよう!!」をコンセプトに、防災訓練を通して地域・多世代で支えあえるまちづくりを目的とする。

高齢者：「知ることから始めよう!!」をコンセプトに、防災訓練を通して高齢者だからこそできることを考え、見つけたできることを地域や多世代の中で無理なくいかしていくことを目的とする。

◇事業実施主体 竹末市民防災会

◇連携・協力機関・団体等

竹末まちづくり協議会・北九州市立竹末市民センター・竹末自治区会・若葉自治区会・竹末校区青少年育成協議会・竹末校区生活安全パトロール隊・竹末市民センターボランティア・北九州市立竹末小学校・竹末小学校PTA・北九州市立総合療育センター西部分所・学校法人緑ヶ丘学園緑ヶ丘第二幼稚園・社会福祉法人天心報恩会引野保育園・社会福祉法人もやい聖友会

◇事業予算 竹末市民防災会より 25,000円（地域防災ドリル）

家庭教育学級 より 11,500円

竹末市民防災会より 11,800円（地域防災ドリル2）

◇実施に至る経緯と各事業の内容

講師：特定非営利活動団体 KID's work 代表理事 大久保大助 先生

①28年度 北九州市立竹末小学校 家庭教育学級 生きる力を育もう

熊本・大分を襲った未曾有の大地震の現状から、生きる力や助けあい、つながりを持つことの大切さについて考えた。講座では防災についてや災害時に「身近なものを活用する」「体験していないと想像することはできない」「災害時は非日常」「現在は日常と非日常の落差が大きい」等を学んだ。

②28年度 地域子ども交流事業 「つくしんぼクラブ」防災ピクニック

家庭教育学級を受講した保護者より“学んだことを是非子どもたちへ伝えたい”との声が上がリ、大人がいないときに災害が起こったとの想定で予定避難所を確認しながら広域避難地を目指す。必要な物は班ごとに協力して運び、移動時の見守りは竹末校区生活安全パトロール隊が行う。到着後の講師は大久保先生と大学生ボランティア、保護者が担う。子どもたちと安全パトロール隊は受講生となる。講座では、「体験していない

と想像することはできない」「災害時は非日常」を学び、身近な物を活用しビニール袋を使った炊飯や新聞紙での食器づくりに挑戦した。新しい学びは、歩き方とツナランタンであった。参加者に防災ジュニアリーダー認定証を発行した。

③28年度 竹末市民防災会 防災訓練 地域防災ドリル

地域及び連携・協力機関・団体に広く参加を呼びかけ、これまでの講座を大久保先生、保護者、子どもたちが講師となり学ぶ。新しい学びは、避難所パーテーションであった。参加者に地域防災リーダー認定証を発行した。

④29年度 生涯学習市民講座 「若竹いきいき倶楽部」 いきいき防災講座

講師の大久保先生のリードで、若い時得意だったことや今困っていることについてグループワークを行った。その後「災害時は非日常」等を学び防災知識に思い込みがないかをチェックしながら自助・共助を考え、自分の持っている力を認識していった。

⑤29年度 地域子ども交流事業 「つくしんぼクラブ」防災ピクニック2

身近なものを活用して防災グッズを作ろうをテーマに、ビニール袋の雨具・新聞紙のスリッパ・カレー皿・キッチンペーパーのマスク・アルミホイルとティッシュペーパーのコンロ作成に挑戦した。

◇地域防災ドリル2

事業内容 別紙日程表添付

主催：竹末市民防災会

共催：北九州市立竹末市民センター・竹末自治区会・若葉自治区会・竹末区青少年育成協議会・北九州市立竹末小学校家庭教育学級

地域及び連携・協力機関・団体に広く参加を呼びかけ、これまでの学びのまとめとして、センターの備蓄品確認→必要なものを持ち出して小学校へ移動→小学校の備蓄品確認→テント設営→モデルルーム・簡易トイレの見学→災害食の準備・防災グッズ作成→災害食試食の流れで避難所開設を体験する。大久保先生の助言を受けながら、それぞれの場面で、共助の考え方を生かして①～⑤で学んだ方々がリーダーとなる。参加者に地域防災リーダー認定証を発行した。

◇事業の成果

幅広い年齢層や様々な団体の参加で「知ることから始めよう!!」の目的が達成できた。その中で地域独自の避難経路・避難所開設や共助の確立が見えてきた。また、まちづくりを支える側も支えられる側も高齢者という現状の中、新しいことに耳を傾けることが苦手だった方が耳を傾けられるようになり、今まで支えられていた方が自分の力に気づき、積極的な参加につながった。高齢者教育とは、それぞれが持つ経験や力への気づきを手伝うことだと企画する側が学んだことが最大の成果である。

◇今後の課題

幅広い年齢層で、まだ関わりを持っていない人々の参加を募る方法や避難所生活の中で、高齢者の知恵や電子機器に頼らない遊びが必要になってくることを活用した活躍のきっかけづくりと持てる力の発掘が課題である。

問合せ先

〒806-0066 北九州市八幡西区若葉1丁目7番1号 北九州市立竹末市民センター

TEL : 093-631-0261 FAX : 093-631-0262 E-mail : ts-sf@ktqc03.net